

ふじしろ政夫と共に市政を変える会

発行 ふじしろ政夫と共に市政を変える会 ニュース10年4月号
〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50 TEL&FAX 047-445-9144
E-メール masao.fujishiro@zc.wakwak.com ホームページ <http://e-kamagaya.com/>

福祉・教育の重点施策をどう実現するのか —平成22年度予算内容から—

“競争から共生へ”、“格差と貧困から暮らしやすい社会へ”。世界中が新自由主義・構造改革によっておとしめられた大不況から脱却すべく、大きく変革しようと模索しています。

子育て支援、高齢者・障がい者支援、ノーマライゼーション社会をつくる為に統合教育（インクルーシブ教育）を、と私達鎌ヶ谷市がとるべき重点施策は、“福祉・教育の街づくり”と、内需拡大へと向う福祉・教育産業の育成と新エネルギー政策への転換です。

以上の視点・観点から、今議会で成立した平成22年度予算をみてみたいと思います。

待機児童の解消

民間・市立保育園の保育運営費を7200万円増額し（4億6000万円）、41名の待機児童の解消です。保育士を増員することで、厚労省が認めている定員の125%枠をつかうものですが、児童の保育環境を考えると、抜本的に施設の増設を考えるべきだと思われます。

子ども手当、13,000円

子ども手当として13億円、児童手当として7億9900万円の予算がたてられ、中学生まで1人1ヶ月13,000円支給されることとなります。鎌ヶ谷市は約2億1000万円の負担となりますが、国で全額負担すべきだと思われます。

緊急雇用103名

緊急雇用創出事業（9500万円）で、学校開放管理事業、発達障がいの生徒に対応するほほえみ先生の4名加配で全小中学校に配置、児童生徒安全パトロール事業、防犯灯管理台帳作成などを展開し、103名の雇用の創出です。臨時でない安定した雇用はどうしたらつくり出せるか思案のしどころです。

課題

今回の予算は、国から交付税+1.2億円（22億円）、臨時財政対策債+3.8億円（15億円）とそれぞれの増額によって財源不足を補填し、予算組みをしたものです。

課題としては“緊急通報システム”に35人分の254万円しか計上していない点です。これからの高齢社会に対応する位置づけが不明瞭故に、市民が要望している緊急連絡システムの構築への道筋ができていないようです。

又、障がい者の特別支援学校は松戸つくしや船橋に依存しています。地元鎌ヶ谷市内に分校という形でも“場”のインクルーシブを実現させる必要があります。

色々と課題はありますが、基金をふやしたり、安定した財政を形成した点は評価されると思われます。



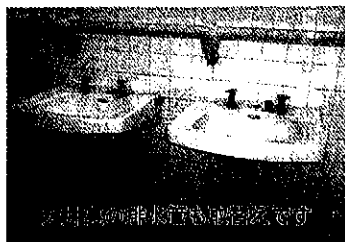
市議会議員
ふじしろ政夫

3月議会で議論されたこと

☆60時間超える時間外勤務に代替休か割増し手当（議案第1号）：月60時間を越えた部分について手当を125/100から150/100に上げるか、代替休を設定することになりました。厚労省の過労死認定基準80時間～45時間にも相当する60時間以上働いている職員は52人いるそうです。問題です。

☆地域活性化、きめ細かな臨時交付金事業、1.4億円（補正予算）：“地域活性化、きめ細かな臨時交付金”が1.2億円程鎌ヶ谷市に交付され、これまで地方債の流用が

できなかった事業などに適用。市庁舎雑排水管取り替え、総合福祉センターの空調設備更新、

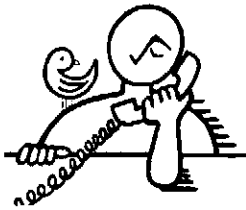


市民体育館床の補修など8事業がおこなわれます。
☆職員の地域手当7%に引下げ（議案第3号）：調整手当がなくなり、その後地域手当として支給されていますが、今回この手当を9%から7%に引下げました。ちなみに印西市、成田市は15%です。財政効果は約8000万円の削減。手当という支給の仕方は見直す時ではないだろうか……

☆特別養護老人ホーム100床増床予定 H23年度中オープン：鎌ヶ谷市には、今240床の特別養護老人ホームがあります。が入所できず待機している方は約280人おります。この度、翔裕園50床の増床、高嶺福祉会の初富の里50床が決まりました。平成23年度中にはオープンの予定。中央東地区です。多床30、ユニット70で介護認定者に対応します。

ふじしろ政夫の一般質問

☆ワンストップで自死・自死遺族対策



1998年以降12年間3万人を越す自殺者を出している日本。個人的問題だけでなく、社会的な問題であるとやっと認識されはじめました。

自治体としてどうとり組んでいくか、質問しました。

鎌ヶ谷市も「保健・医療・福祉問題協議会」の中で協議テーマとして取り組み始め、自連協の協力でふれあい員302名に「あなたのこころ元気ですか」の予防小冊子を配布。

自殺率20%減少にむけ目標を設定して対応することが明らかになりました。

鎌ヶ谷市は20名前後の自死

福祉部長：当市の自殺者は年間20名前後で推移。男性が女性の2～3倍。全国平均に近い結果が出ています。

10の危機要因が連鎖しています

福祉部長：自殺時には危機要因を一人あたり4つほどもっていることが明らかになりました。

「うつ病・負債・身体疾患・事業不振・過労など」10要因で全体の7割を占め、これらが連鎖しながら“自殺の危機経路”を形成します。

ネットワークで相互に連携して

ふじしろ市議：自殺者の72%が直前に援助を希求しているが、これに答えきれていない現実があります。

福祉部長：医療・保健・福祉におけるネットワークをつくり、相互に認識、協力できる仕組みをつくっていくことが必要です。

ワンストップサービスで自死対策も

ふじしろ市議：ハローワークでの就労・居宅・生活支援のワンストップサービスの場に、自死対策も関係させる必要もあります。

市民部長：大変重要な取り組みですので、具体的に検討します。

職業紹介所・消費生活相談窓口にポスターや自殺対策のパンフレットをおいたり、一声かけるなど早い段階での対応をしていきます。

自死遺族と自死対策の一体的とり組み

福祉部長：“死因を自殺といえない雰囲気・偏見・差別”から自死遺族が開放されるように一体的に対応していきます。

☆“6市2村の合意”が北総の高額運賃の固定化・成田空港線の異常運賃を

7月17日、成田新高速鉄道が開通し、都心と空港を36分で結ぶ新型スカイライナーが走ります。成田新高速鉄道の開通にあわせて北総線の値下げが話し合われました

が、たった4.9%（平均4.6%）の値下案で2009年11月30日、県と6市2村の首長と業者との間で合意がされました。成田空港線の運賃は2/19に認可され、北総の高い運賃が維持されました。鎌ヶ谷市が毎年900万円の補助金を出す“合意”のもっている問題点、成田空港線の異常運賃について質問しました。

急いで合意する必要がなかった

ふじしろ市議：県は常に「成田空港線の運賃認可申請の前までに」「この機をのがしては北総の値下げはできない」といって6市2村の合意を急がせましたが、まったく関係ないことが成田空港線の運賃認可申請で明らかになりました。急いで合意する必要がなかったのです。

“認可されたから適正です”と繰り返すだけ

都市部長：成田空港線の運賃上限設定認可申請は、鉄道事業法に基づいて北総線とは別路線として行われたと認識しています。運輸審議会から答申が出て、国土交通大臣から認可されており適正なものとして認識しています。

苦渋の選択……そのあとは

市長：合意するのに5つ条件をつけました。国・UR・県の責任を含めて、又、今回の補助金を出す枠組そのものを含めて検討していくよう県に言っていきます。鉄道建設費の金利負担の問題も国へ訴えていきます。

6市2村の合意は、北総の高額運賃を固定化させた

ふじしろ市議：県から急がされ、6市2村の首長がみな苦渋の選択をした。その結果は北総の高い運賃を固定化させる結果になった。

成田空港線の異常運賃も合意の結果

ふじしろ市議：成田空港線運賃認可申請時、北総の高額運賃をそのまま適用した異常運賃に住民が公聴会等で抗議したが、6市2村の首長が合意しているでしょと言われるとのこと。異常運賃体系をつくる為に“合意”がつかわれました。

※北総鉄道運賃助成補助金675万円の予算は、補助金の出し方としても、又、成田空港線の運賃の決定の仕方としても多くの問題をかかえすぎています。

6市2村の首長・県とが合意したものはとはいえ将来に禍根を残す支出です。反対の気持で、予算案採決でふじしろ政夫は退席しました。

☆図書館の指定管理者制度 検討中

鎌ヶ谷市の図書館は、現在市の直営で、一部の業務を民間に委託しています。

平成23年度から「指定管理者制度」を導入することが、「公共施設再編計画」等に記載されていますが、現在、どんな問題点があり、又、指定管理者というすべてを民間に託することにしようとする目的は何なのか、質問しま

した。

最終決定でなく検討段階です

総務部長：図書館の指定管理者導入については、現在検討を進めている段階です。市民への説明や意向の把握に十分留意します。

指定管理者のメリットとデメリット

総務部長：民間企業等が持つノウハウを活用することで、多様化する行政ニーズに対応、行政改革を進める一つの手段としてメリットがあります。協定書で規定するので弾力的な運営がしにくくなるデメリットもあります。

現在は利用者から評価も良い



生涯学習部長：平成17年より図書館業務の一部を民間委託しましたが、利用者からの評価もよく、委託業務にも不備が見られません。

現在の課題

生涯学習部長：市民の多様化する要求に対応するため、①より柔軟で弾力的な図書館運営を、②図書館の長期的視野に立った運営を、③委託先職員への指揮ができないこと、が現在の課題です。

だから民間のノウハウを導入することでよりサービスを向上したい。

ふじしろ市議：現在の課題は、指定管理者にしなくても解決できるのでは……

指定管理者導入を含めてよく議論します

生涯学習部長：図書館協議会で議論の密を高め、よりよい提言をしてもらいたいです。

社会保障政策のゆくえ

千葉県地方自治研究センター主催の講演会。

淑徳大結城康博准教授が現政権の社会保障政策について語りました。子ども手当として中学生以下に月13,000円



(来年以降は26,000円)の支給といった“現金サービス”は、社会保障の政策としては待機児童解消の為、保育園設置といった“現物サービス”とくらべて政策価値は下と指摘。

又、診療報酬の改定や、特別養護老人ホームへの対策として十分な予算を付けきれていないので、介護難民、医療難民の課題が解決されていない点も指摘しました。前政権のつくり出した問題とはいえ、はっきりとした“長期ビジョン”を提示し、“医療・介護の必要になった時、安心できる体制”をつくる必要があると、現政権のとるべき方向性を示しました。

更に、ドイツ、スウェーデンの社会保障制度と対比しながら、“地域主権戦略”による地方分権で福祉領域を各自治体にまかせることの危険性を地方議会の現状(福祉・教育を中心にすえていない)から批判的に語りました。議会・行政における市民自治の質の向上を痛感させられました。

清水市長 三期目へ出馬表明

清水市長は、一般質問に答える形で、三期目への意欲を表明しました。

“子育て支援”を中心に“世界につながる文化交流の街”など、これまでの課題を解決したいと語りました。

市長選挙は7/11が予定されています。

かがやの“地域医療”をつくっていこう

②訪問看護・訪問診療

長野県の佐久総合病院の地域医療は“住民参加と地域に出ていく医師、看護師の活動”によってつくられたとのこと。

予防医療としての保健・いつでもどこでも必要な医療・その人にあった介護がトータルにケアされる『地域ケア』が形づくられています。

鎌ヶ谷市にも、そんな仕組みをつくっていききたいものです。

市内で訪問診療、往診をしてくれる医療機関は、鎌ヶ谷総合病院(利用者対象)、かがや診療所、秋元病院(利用者)、まこと医院(在宅療養支援診療所)などです。まだまだ体制として整っていません。解決していく為に医師会と住民との意見交換の場をつくっていく必要を感じます。

(ふじしろ)



“陳情：公契約条例制定の検討を開始”を不採択???

昨年9月野田市では全国で初めて公契約条例を制定しました。公共工事、請負業務の契約従事者の最低賃金を市長が設定することで、官製ワーキングプアをつくらぬようにとその一步をふみ出したものです。

鎌ヶ谷市は国の動向を見てからとあって動こうとしません。今回3月議会での陳情を契機に、議会も行政も検討しはじめるべきとふじしろ政夫は採択の意見を述べましたが、なぜか「野田市の条例は十分理解できる。でも公契約を勉強していきます」との不採択の意見に多くの議員が同調し不採択となりました。

現在国で策定中の「公共工事報酬確保法案」の対象は、国の契約だけですし、公共工事だけです。

地方自治体は自分達で考えなさい、条例をつくりなさいといった立場です。

働く者が安心できる社会をつくるのは、各自治体の責務です。それが地域主権、住民自治なのです。

ここが！鎌ヶ谷の分水嶺



四つの水系の分水嶺に位置する鎌ヶ谷市の自然についての講座がありました。日本山岳会千葉支部長篠崎仁さんは、「鎌ヶ谷市はなにもないよ

うだが、千葉県の中でも特徴的な地形です」「標高30mの台地から太平洋へ流れていく水系と、東京湾に流れていく水系との境界に位置する街なのです」と、房総半島の分水嶺と比較して鎌ヶ谷を語ってくれました。

雫水の会の斉藤竹雄さんは、昭和35年頃、湧水が20cm以上わきでていた様子を話しました。

講演のあと、参加者全員がまなびいプラザから商工会～二中前を通して雫水へ向けて、分水嶺を自分達の足で歩きました。「踏切りから商工会までのここが分水嶺だなんて」とビックリしながら、ワイワイガヤガヤ楽しく歩きました。二中前の開発の表示板の前では、「このリッパな木々がなくなってしまうのね、残念だわ」と街づくりのあり様を問う言葉が出ました。

雫水では幸運なことにカワセミを見ることができ、「残さなければならない自然」を感じました。

フィンランドの教育から……

「フィンランド教育から日本の教育を考える」という福田誠司都留文科大教授の講演を大変興味深く、そして今の日本の教育の状況を危惧せずにはいられない気持ちで聞きました。

「日本の子供は答えを出せるが、自分で答えを“導く”のはとても苦手です。結果だけがすべて。」「分らなくなると、何もしようとしない“指示待ち人間”になってしまいます」と日本の現状が語られました。

そして、フィンランドでは「その子がどこでつまづいて、どこまで理解しているのかを見るので、16才までは点数をつけない」「子供の能力、進み方、覚え方も皆違うので、学び続けることの方が大切です。すべての人間は違ってよいのです。」というフィンランドの教育に感心しました。又、フィンランドでは、子供の教育費・医療費は無償。子供の教育は社会全体の責任。その代り税金は高い。国の経済に反映させる三世代先までの投資と考えているそうです。

逆に今の日本、経済的理由で教育をうけられない状況になってきているとの事です。心が痛みます。

暮らしの中の野馬土手

—— 柏市立第二小学校となった捕込跡と野馬土手(上野牧) ——



上野牧の捕込は柏駅より免許センター行きバスで、柏市立第二小学校下車 直ぐの小学校になって仕舞い、捕込は消滅したと云われる。

念の為学校の周囲を見回

ると、学校裏に草木の茂った高さ約3m長さ約40mの土手を見付けたので、近くで働いていた農家の人に尋ねた。

この土手は、かつて小学校に在った捕込に繋がっていた野馬土手で、小学校の校庭に掲示板が在ると教えてくれた。

鈴木喜久次

鎌ヶ谷市も平和市長会議に加盟



2010年1月1日付で鎌ヶ谷市長の平和市長会議への加盟決定がされました。

非核平和都市宣言(1984年)をして26年。

千葉県下、市としては1番目に“平和市長会議のヒロシマ・ナガサキ議定書”に賛同署名をした清水市長の非核平和への熱い思いに敬意を表します。

広島市から贈られた被爆の敷石モニュメントも、総合福祉保健センター前にあります。8/6、8/9広島・長崎での非核平和祈念式典へ、未来を荷負う子ども達を出席させたいものです。鎌ヶ谷市の更なる平和行政の推進を要請します。(F)



初小デーサービスあとに

包括支援センターが

初小にあったデーサービス、小学生と高齢者が交流できる福祉施設として、その意義が高く評価され、全国から視察もされておりました。

3年前、市は市民サービスを20%削減する政策に従って、いとも簡単に切り捨ててしまいました。

今度そのあとに包括支援センターを設置し、高齢者と小学生の交流の場も復活させようということが決定されました。よりよい効果が出るように学校も事業者も協力してほしいものです。

ふじしろ政夫 市政報告会

4月29日(木・祝) 13:30～ まなびいプラザ

☆自死・自死遺族対策

☆北総・成田空港線運賃の不合理性と街づくり

☆平成22年度予算 など

お知らせ



☆第三期自主講座・市民自治第1回

「自治体と事業仕分け」 福嶋さん

4/21(水) 19:00～ 中央学院大学

市民:1000円

☆ノーベル賞受賞者 益川敏英さん講演会

5/3(月・祝) 14:00～ 松戸市民会館

500円(チケットあります)

……戸部、ふじしろまで

☆とっこめ寄席:金原亭馬生とその一門

4/24(土) 11:30～ 東部学習センター

申し込み:KAOの会 498-6111

木戸銭 1500円から

☆津久井市政報告会

5/9(日) 13:30～ まなびいプラザ

□法律弁護士無料相談 要予約 ふじしろ市議まで

4/24 5/29 6/19 7/17 13:00～

□音楽会 毎週金曜日 13:00～ トライ事務所